

ルネサンス研究所 反戦・反貧困・反差別共同行動 共催

2024年6月23日(日) 於 キャンパスプラザ京都4階第3講義室

**パレスチナ問題と欧米近現代
—パレスチナの現状、
シオニズムの歴史的・思想的起源—**

板垣 雄三

お話を進めるプラン

◆下記の番号順に考える。各項で着目する問題点① ②…

③パレスチナ問題と欧米近現代

① 十字軍・東方問題・パレスチナ問題、② 正統派キリスト教と西欧的思考、③ 近代性の見直し 欧米中心主義の克服

①パレスチナ[及び、これと取組む中東・世界]の現状

① 注目すべき変化と惰性・欺瞞・妥協、② 2回の世界戦争が創り遺した不正義・罪業・偽善、③ 新たな人類破局の危機

②シオニズムの歴史的・思想的起源

① 西洋キリスト教社会の産物としてのシオニズム、② 世界のユダヤ教徒社会におけるイスラエル国家批判の拡大

パレスチナ[及び、これと取組む中東・世界]の現状[Ⓐ]

◆9カ月間の注目すべき変化と惰性・欺瞞・妥協 二重基準

米国の孤立 4/18 国連安保理 パレスチナ国加盟勧告案流す

アルジェリア提起、賛成12/棄権2(英・スイス)/米拒否権

5/10 国連総会決議ES-10/23 パレ国正式加盟

UAE提起、193カ国中 賛143、反9(米・イスラエル・アルゼンチン等)

6/11 安保理決議2735 (5/31バイデン3段階停戦案 歓迎)

露のみ棄権 その後の不調:イスラエル非協力不問、ハマース非難

ICJ(暫定措置[命令])、ICC(イスラエルとハマースの指導者の逮捕状請求)、国連人権理事会調査委員会報告書(イスラエルとハマース双方に戦争犯罪行為あり)

■植民地主義/ジェノサイド/抵抗権/認識vs.戦争・暴力・テロ観の一般化/反ユダヤ主義のラベル警戒回避/の習性

抵抗権

- **国連総会決議2625 (1970/10/24) 外国の征服・支配・収奪に服従させられる人民が抵抗する権利**
 - Fayez A. Sayegh, *Zionist Colonialism in Palestine*, PLO Research Center, 1965.
https://www.freedomarchives.org/Documents/Finder/DOC12_scans/12.zionist.colonialism.palestine.1965.pdf 国連憲章第7章平和への脅威 第51条自衛権として観る
 - **世界人権宣言 (国連総会、1948/12/10) 人間が専制と圧迫とに対する最後の手段として反逆に訴えることがないようにするためには…**
 - **国連総会決議194 (1948/12/11) パレスチナ難民の早期帰還権・被補償権**
 - **米国独立宣言(1776/7/4) 不正と権利侵害の専制を拒否することは人民の権利であり義務である** 「不可侵の自然権
 - **フランス革命の人権宣言 (1789/8/26) 自由・所有・安全・抵抗権は永久へ**
- *****
- 朝日新聞DIGITAL 2014/6/17(月)
ヨルダン川西岸「もう一つの戦争」軍・入植者の暴力激化、パレスチナ人500人超殺害

パレスチナ[及び、これと取組む中東・世界]の現状①

◆2回の世界戦争が創り遺した不正義・罪業・偽善

- **第1次世界大戦 1914-18** (英国の三枚舌外交: 15-16 フサイン・マクマホン往復書簡、16 サイクス・ピコ協定、17 バルフォア宣言[シオニズム支援])
- 戦後: 英・仏がオスマン帝国のアラブ地域を山分け= 20 サンレモ会議 (英: エジプト支配に加え、パレスチナ/トランスヨルダン/イラクを、仏がレバノン/シリアを、それぞれ国際連盟から預かる委任統治領とし)トルコ・イラン含む中東諸国体制築く。33独ナチ政権成立すると、そのハアヴァラ(ユダヤ人棄民=パレスチナ植民)に、シオニズム・英・米が協力、イシューヴ大膨張、36-39アラブ反乱は壊滅した。
- **第2次世界大戦 1939-45** (欧州に残っていた老人・子どもの比率が高いユダヤ人社会は強制収容所やゲットーでのホロコーストの時代迎える。シオニズム運動はパレスチナ現地派が勢力を増し、パトロンを英国から米国に乗り換える。
- 戦後: 生き残ったユダヤ人は故郷に受け容れられず、パレスチナに向かわされ、ホロコーストの償いとしてのイスラエル建国のため、パレスチナ人アラブが身代わりで郷土を追われる(ナクバ)。満洲国を始末した戦争が別の〈満洲国〉を創る。

■イスラエル国家を創るのは、英・仏に代わる(冷戦の筈の)米・ソ

パレスチナ[及び、これと取組む中東・世界]の現状②

- 1946/10/4 米トルーマン大統領、ヨム・キプル(贖罪の日)声明 英国首相への欧州からのユダヤ人10万人のパレスチナ受入れ要求に続き、ここにユダヤ人代表機関の求める領域でのユダヤ人国家の独立宣言承認の方向付けを宣言。
 - 1947/11/29 国連総会決議181 (いわゆるパレスチナ分割決議、国連パレスチナ特別委UNSCOPの多数派案=ユダヤ人国家・アラブ国家・国際化都市エルサレムへの3分割、[賛成33[米・ソ・仏等], 反対13[アラブ諸国・インド等]:, 棄権10[英・中華民国等]]、制定したばかりの国連憲章に違反、自決権軽視と公正欠く操作)
 - ナクバ 1948/4/10デイル・ヤースィン村虐殺等の民族浄化・住民追放
 - 1948/5/14夜(英国委任統治終了)イスラエル独立宣言 アラブ諸国との戦闘開始
 - 1948/9/17 国連調停官フォルケ・ベルナドッテ伯暗殺(シオニストのテロ)
 - 1949春にかけ国別停戦(国連決議は行方不明の3分割[ガザ→エジプト西岸→ヨルダン]、1949/5/11イ国連加盟、1967/6パ全域支配の既成事実化
- 今、立ち上がる若者たちは新しいホロコーストを敏感に見抜いている。

パレスチナ[及び、これと取組む中東・世界]の現状©

新たな人類破局の核戦争の危険に目を向けよ

- **イスラエル国家の政治危機** それは東アジアにもリンクする
極右連立政権 思想・個別利害・行動様式バラバラ カハニストの牽引力
ガザ圧力釜破裂の背景 司法制度の強引改造への軍・国内反撥
ハマース殲滅追求ジェノサイド 国際孤立、人質放棄、ハレディーム徴兵
人道危機対策の米圧力と戦時内閣崩壊・退陣要求 突破綱渡り
- **2024/11/5米大統領選待ち戦争を維持**[首相夫妻の汚職訴追回避も]
- **4月から既に戦争局面の転換が進行** 対イラン。エジプト・ヨルダン見捨て。

4/1 ダマスクスのコッツ軍団指導部殺害、4/13 イランがミサイル・ドローンでイスラエル報復、4/19イスラエルのイラン攻撃、5~6月レバノン ヒズボラーの対イスラエル攻撃の拡大激化、5/20 イラン大統領のヘリ墜落は気象条件にかけイラン側諸勢力の調整に当たっていた同乗のアミール・アブドゥラヒヤーン外相だったのでは？との説もある。

シオニズムの歴史的・思想的起源^㉑

- 西洋キリスト教社会の産物としてのシオニズム
- 15～16世紀ルネサンス・宗教改革期をつうじてヘブライ語聖書(旧約聖書)の各国語翻訳がすすみ、ユダヤ・キリスト教観念が民衆基盤まで広がる。
- ピューリタンをはじめ、改革派プロテスタントの間で、Dispensationalism〈神の救済計画の摂理〉史観に基き、キリスト再臨の待望とつなげてユダヤ人のパレスティナ集結を促し、キリスト教への改宗を予定するPremillennialism「前千年王国説」終末論がユダヤ教徒の間でのメシアニズム〔殊にシャブタイ・ツヴィ(1626-76、1665年エルサレムでメシア宣言)の運動の全欧州的反響と重なり合う「キリスト教シオニズム」Gentile Zionismを出発させた。

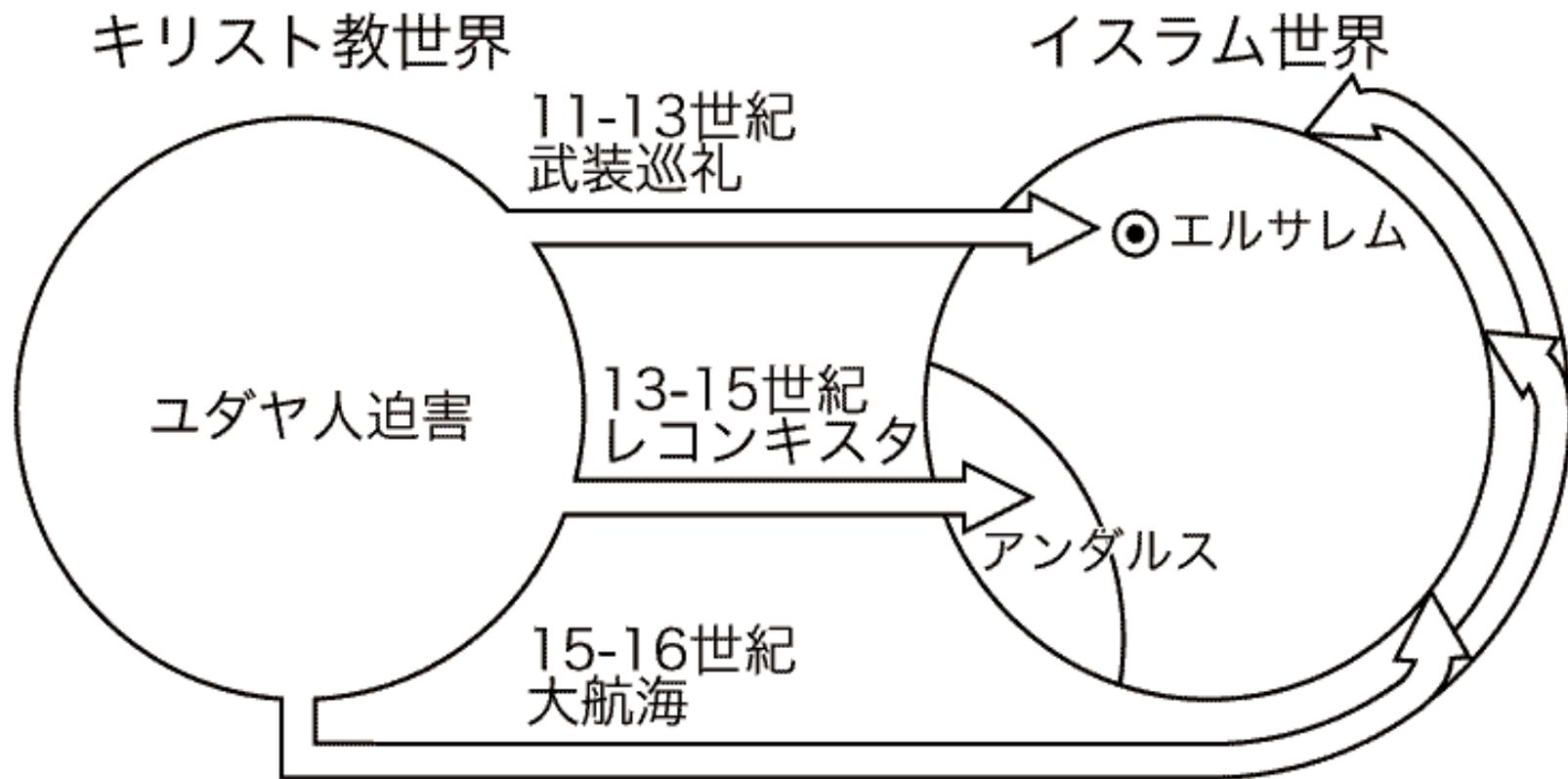
世界のユダヤ教徒社会における イスラエル国家批判の拡大

- 19世紀後半から展開されるユダヤ人の政治的シオニズムは、17世紀以来のキリスト教シオニズム（本来はキリスト教終末論における「ユダヤ人復興」の想念とでも言うべきところ、この用語は後世の概念を前倒しに借用しているにもかかわらず、皮肉にも実態的にそれ）に便乗して「ユダヤ人国家」実現をめざす運動だった。脱宗教・イデオロギー偏向・領域取得の話になると途端に宗教が前面に出る異常さ。
- 離散の地で心身を正す世界中の敬虔なユダヤ教徒、国土やレイシズムや軍国主義を他所に思想・文化・学芸にいそしむ自由なユダヤ人とイスラエル国家の距離が広がるばかりの状況が、歴然と見えるようになった。

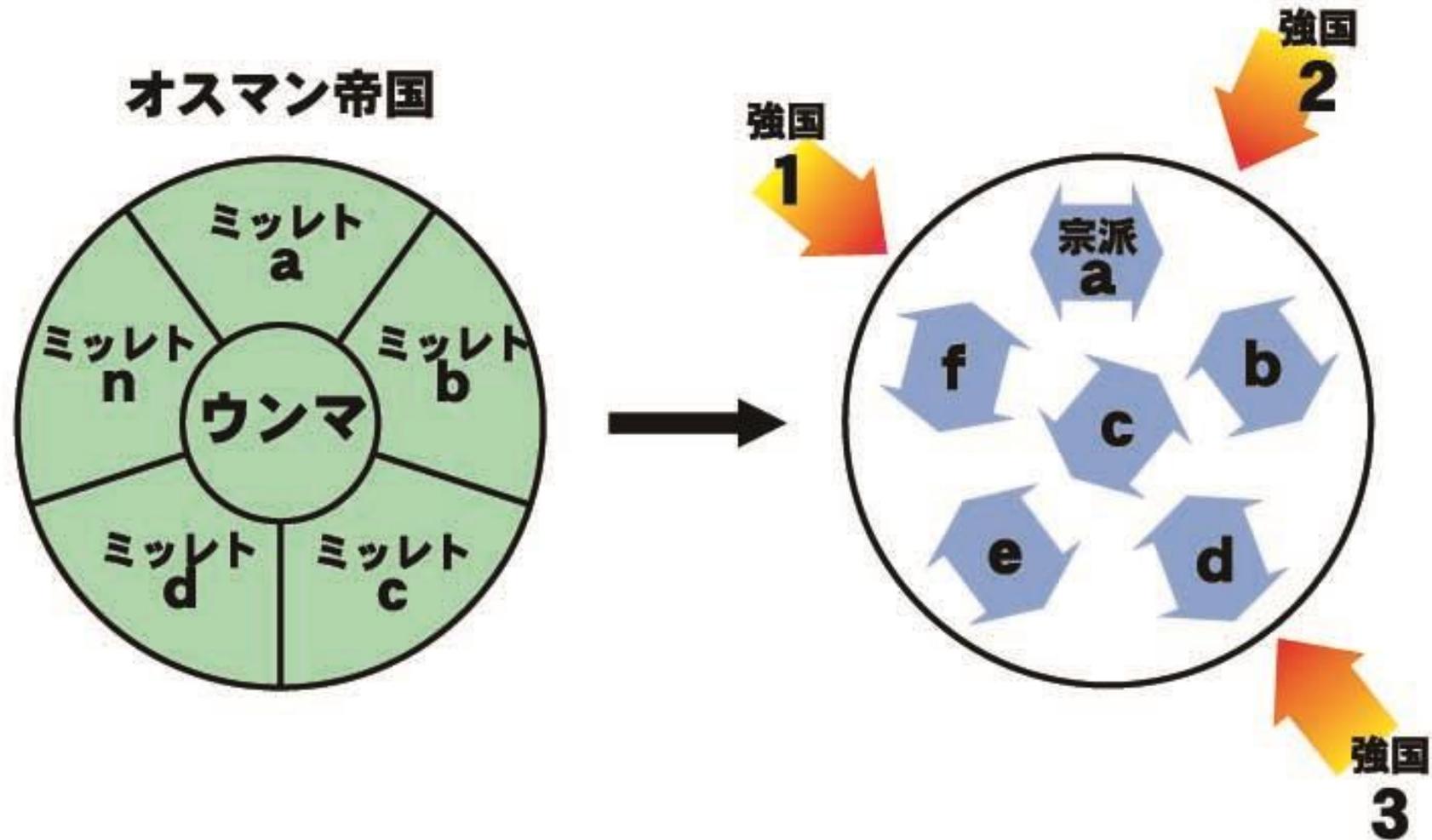
十字軍・東方問題・パレスチナ問題

- **十字軍**（11世紀～17世紀）
「二つの世界」論（反イスラーム＝ユダヤ人差別）
軍事侵略＋植民地主義
- **東方問題**（18世紀～19世紀）
「モザイク社会」論
宗教宗派紛争を煽動・操縦する分割統治
- **パレスチナ問題**（20世紀～）
十字軍＋東方問題
欧米ユダヤ人問題の押し付け
前哨・「償い」としてのユダヤ人国家
中東諸国体制（国分けシステム）とリンク

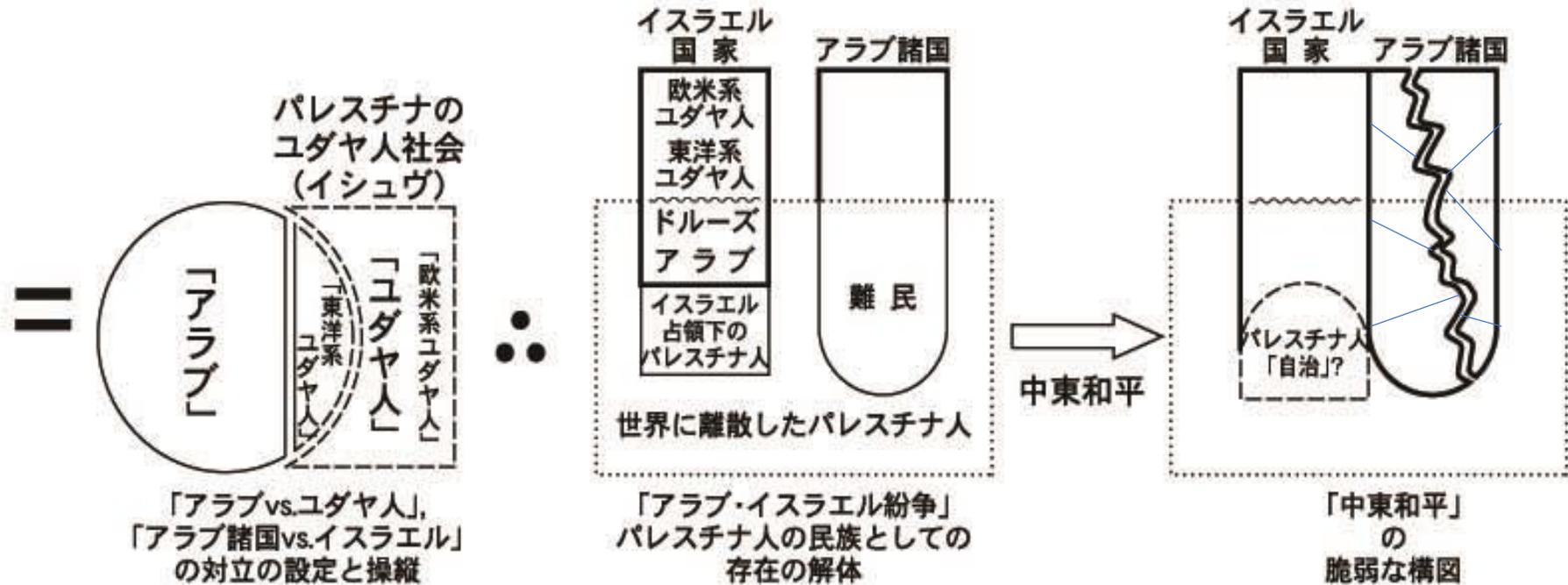
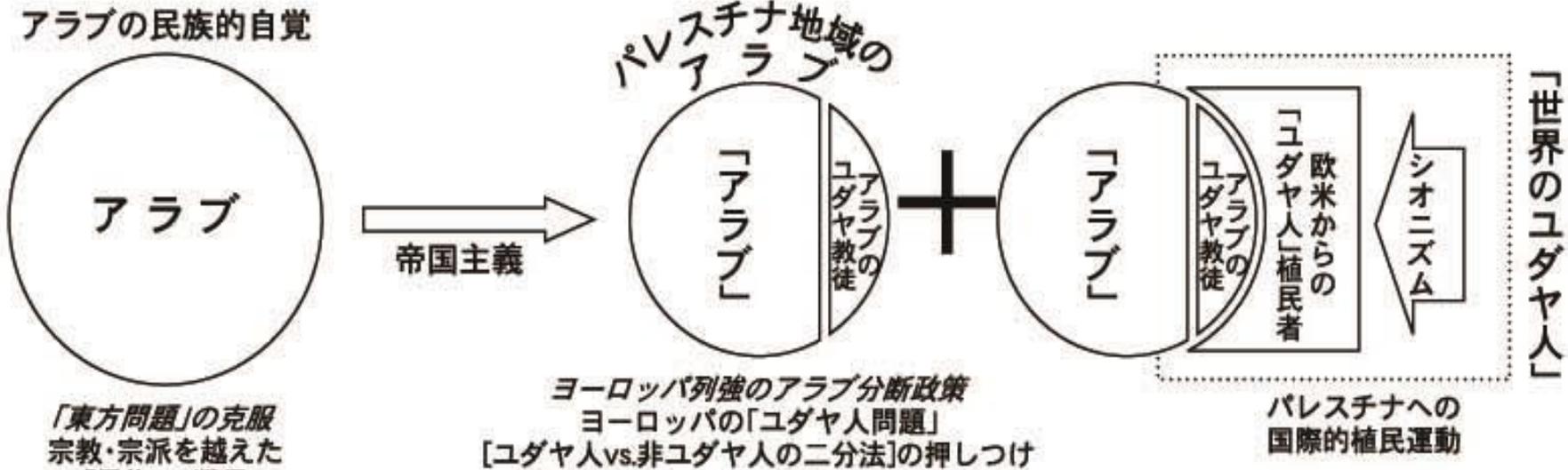
十字軍 (+レコンキスタ +大航海)



東方問題



パレスチナ問題





キリスト教 ユダヤ教

社会的差別

- 二分法
- 人種主義

迫害

- 「神殺し」
- 「聖体(のパン)の冒瀆」
- 「儀式殺人」

توحيد

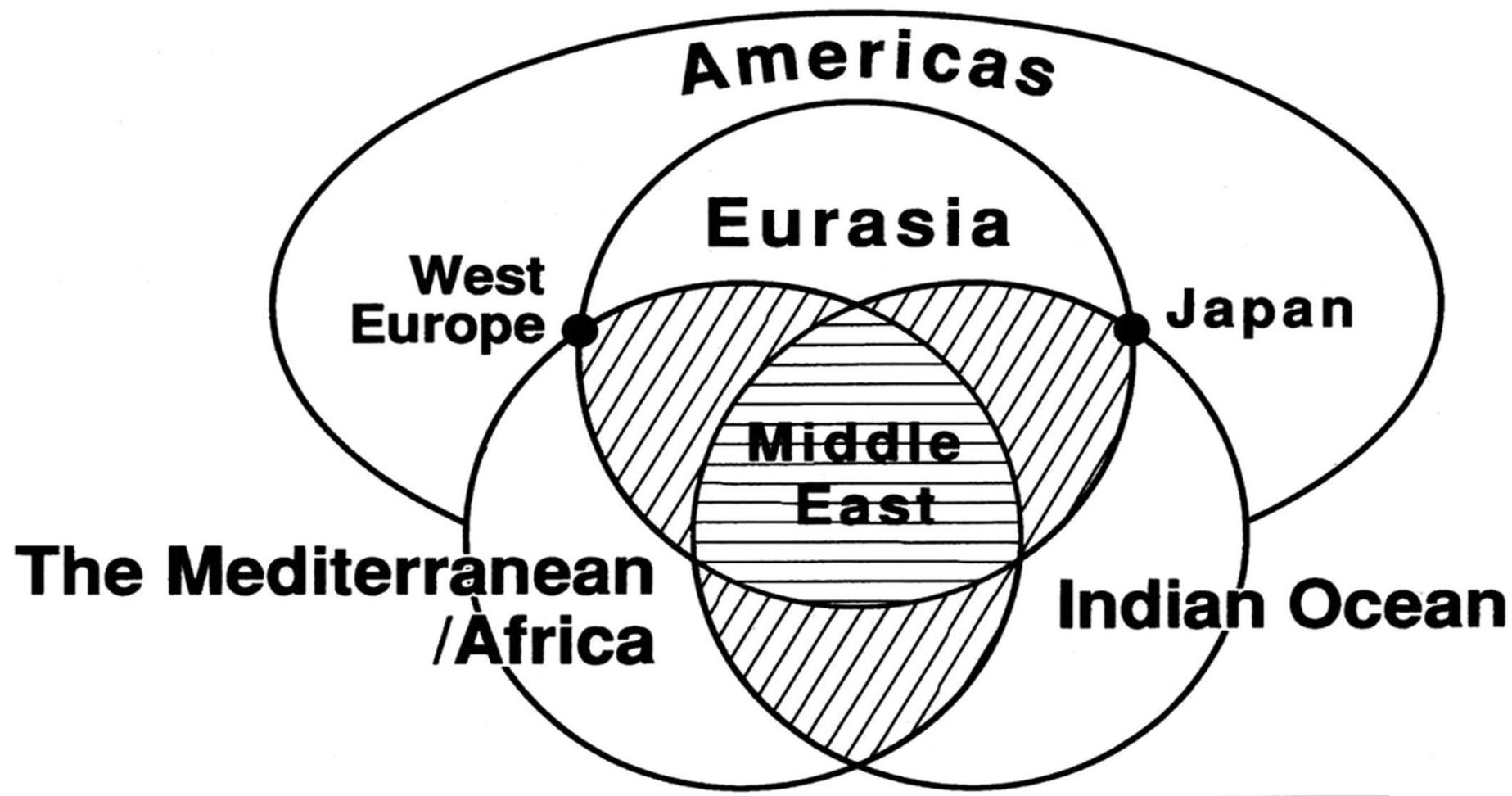
タウヒード

一つにすること / 1 と決めること / 1 と数えること
神の唯一性を確信 / 多即一 / 多元主義的普遍主義

パレスチナ問題と欧米近現代[ⓑ][ⓒ]

- 正統派キリスト教と西欧的思考 気になる ユダヤ人/イスラーム/
 - 二分法思考 二項対立 排中律 正統と異端、心と身体、精神と物質、経験と理性
 - 還元主義
- 12世紀ルネサンス イスラームからの学習 スコラ学
- 近代性
 - 個の尊厳、自由、平等、公正、平和、ジェンダー等位、同胞愛、人類意識、多様性・差異性の尊重、公共性、社会契約、弱者支援、互助、福祉福利、寛容、真善美の価値、知識・情報の価値、安定した循環の持続力あるエコロジー・自然環境、ネットワークとパートナーシップ、倫理、…

欧米近現代がもたらした近代性の病変・重症あまた

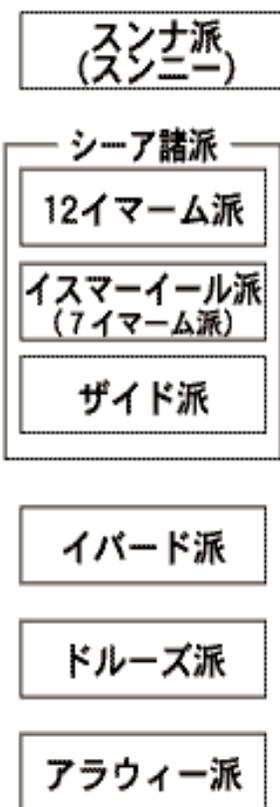


=====
=====
=====
=====
Middle East

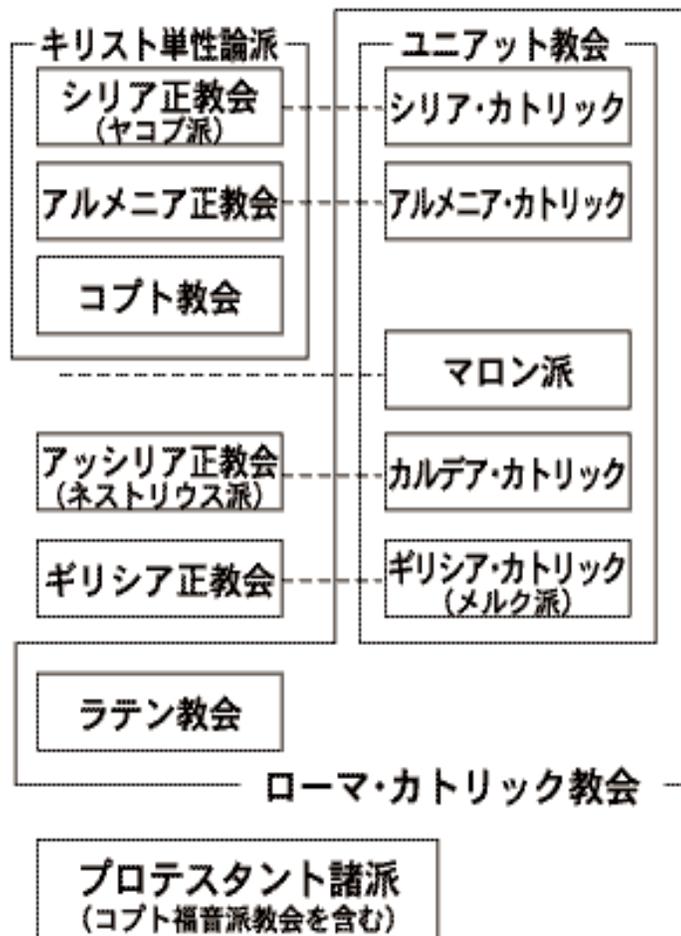
/////
/////
/////
/////
/////
Extension of Middle East

中東における宗教・宗派

イスラームとその系列



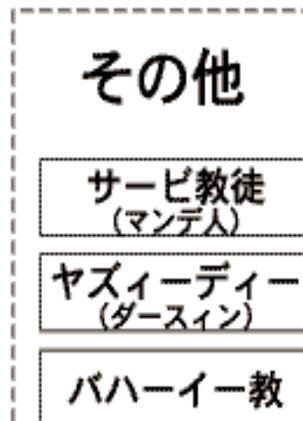
キリスト教



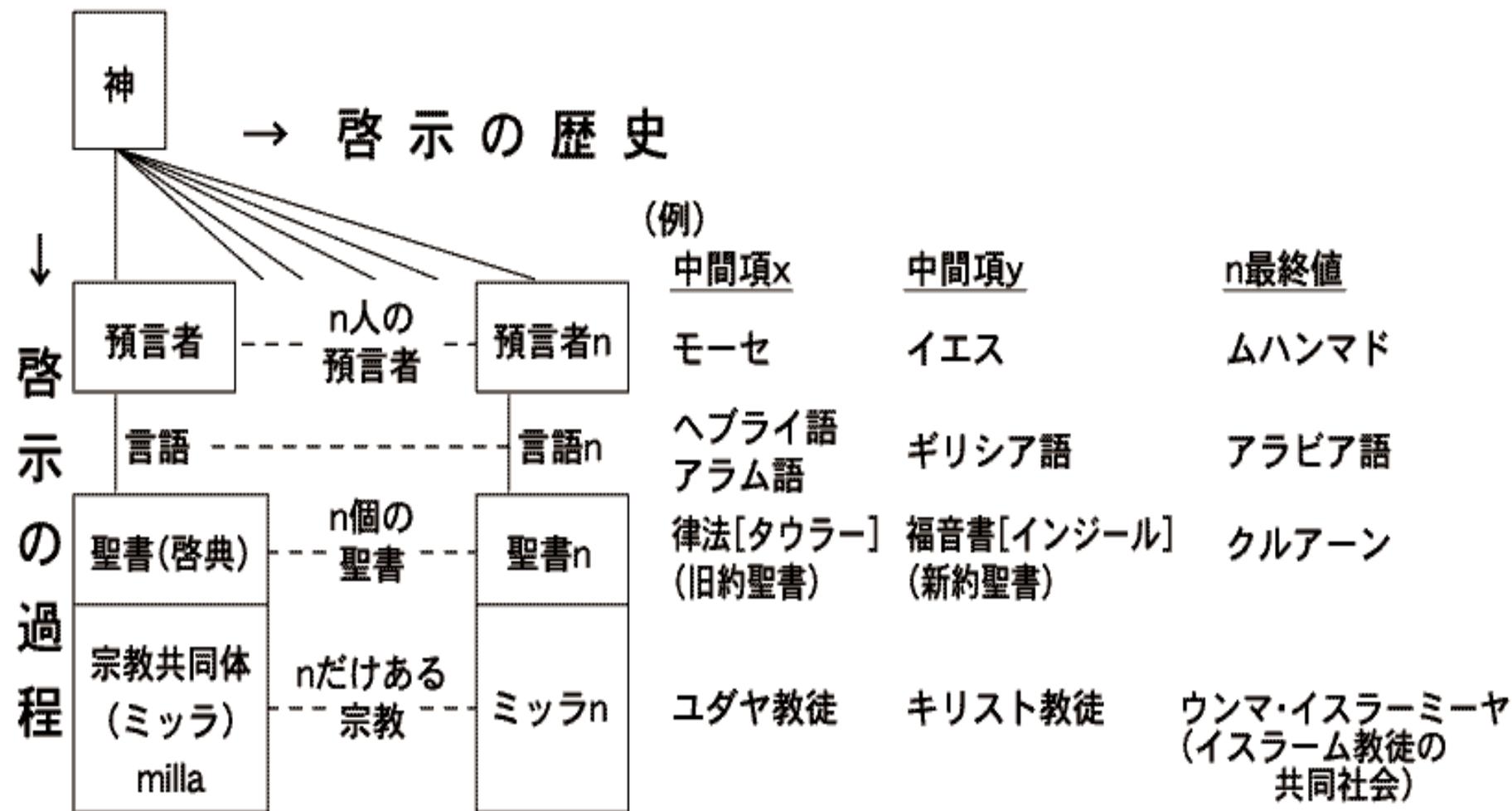
ユダヤ教とその系列



ゾロアスター教

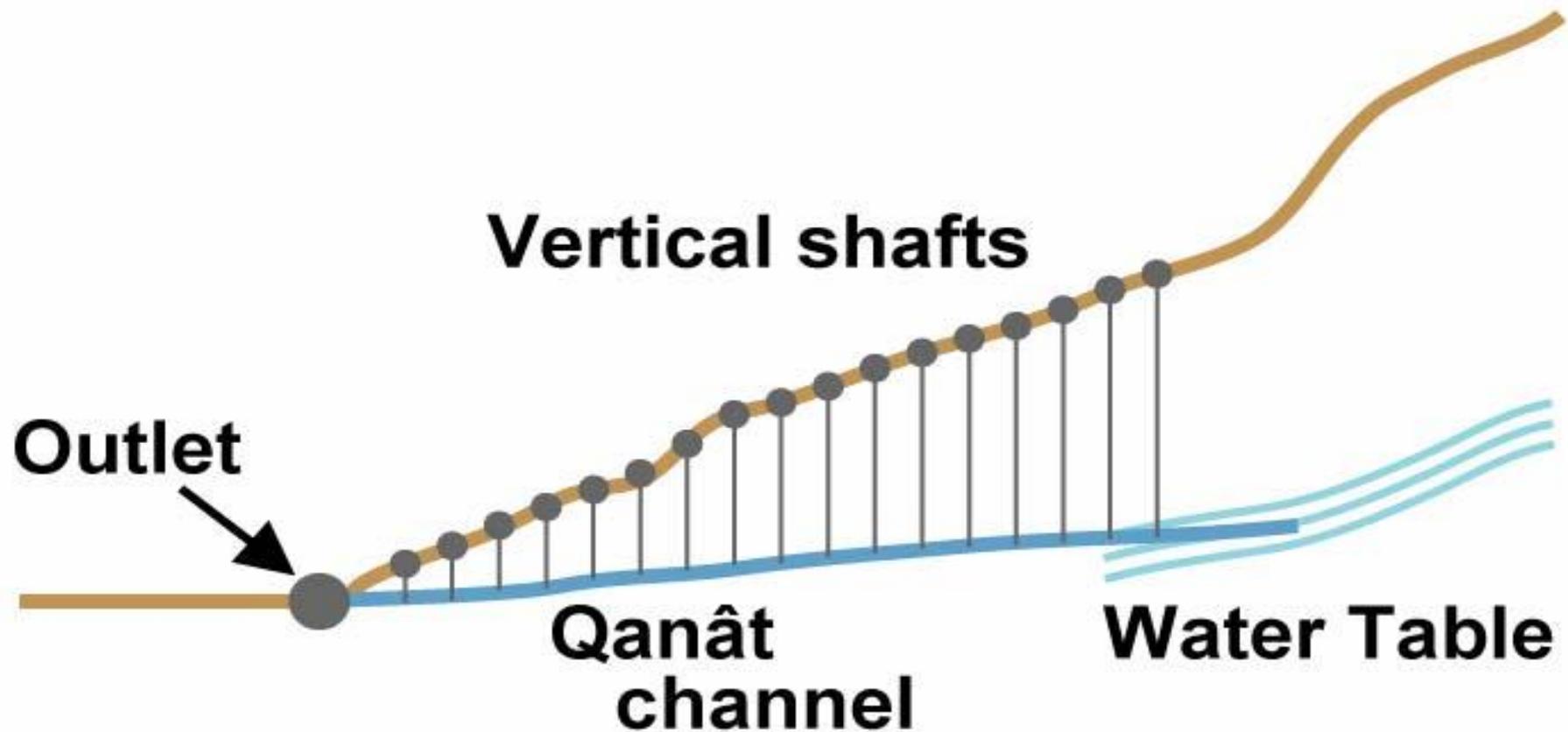


n回繰り返された神の啓示

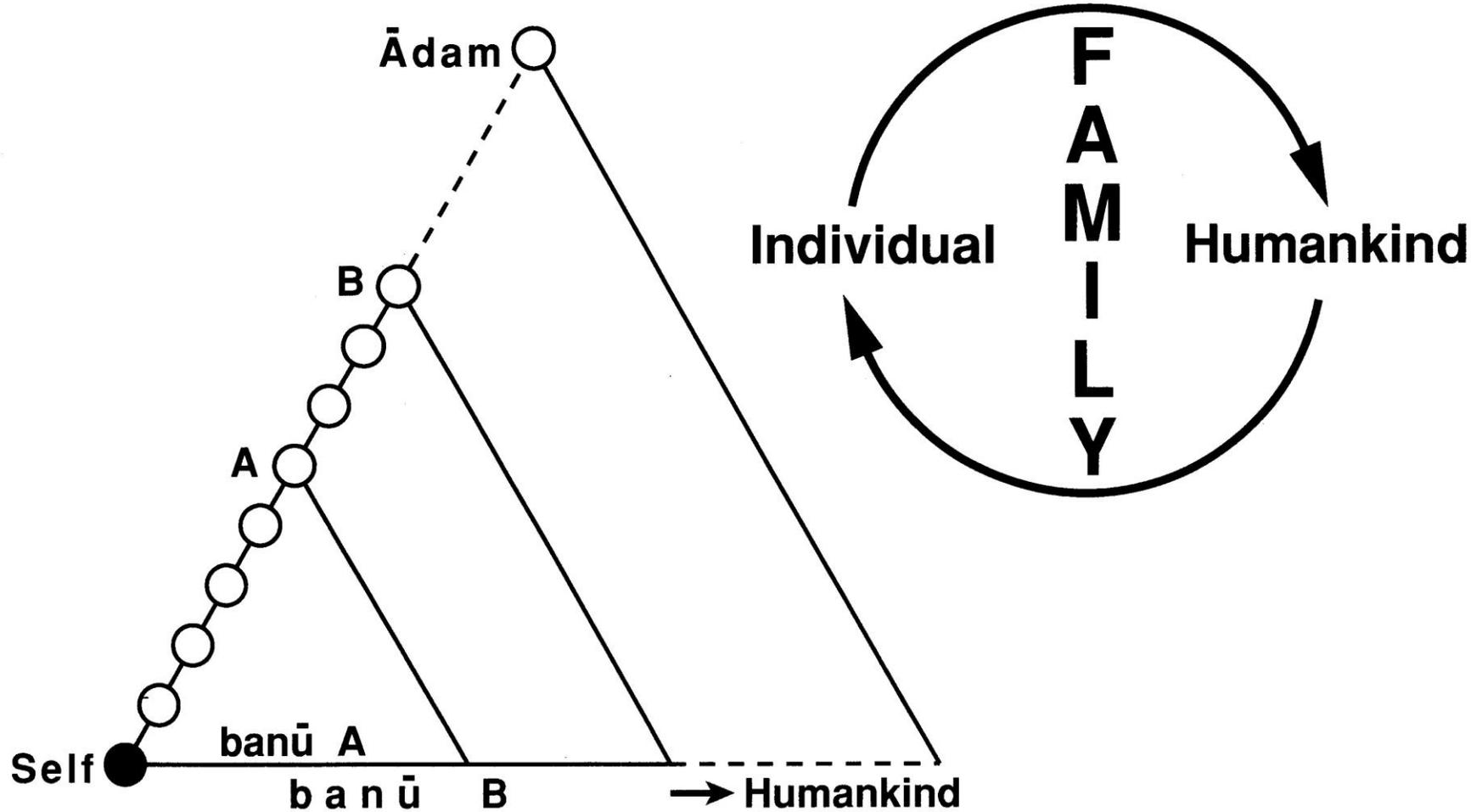


Qanât (Kârîz)

for Farmland and/or City



Variant Shape of Family



**An Individual handles his/her identity
for social positioning
at every moment in a given situation
within
feasible affiliations to
Gender / Family / Religious /
Sectarian / Linguistic / Cultural /
Ethnic / National
Groupings**

AREA _n



P-R vs. Q

P: a force to maintain and to reproduce hierarchical system of discrimination

Q: a *national* movement to overcome multi-layered discrimination and to acquire solidarity bond

R: a reactive wedge of *nationalism* to secure the political and ideological control of the national formation

Peter Donald Albert Cohen,
Ph.D.

ペーター D. A. コーヘン 博士

社会学者 オランダ

アムステルダム大学

社会・行動科学 学部

薬物研究センターCEDRO所長

欧州連合・欧州議会での薬物及び
健康福祉政策に関わる活動で指
導的役割を演じている

